

白河離宮〔岡崎村をいふ、法勝寺の地これなり。原は忠仁公の別業、子孫に伝て、累代皇太后多くこゝに住し給ひ、仙院と称す。承暦年中藤師実公新にこれを造替し、白河帝法勝寺を建て離宮とし給ふ。康平三年三月二十五日帝白河院に行幸ある事は、康平記に見えたり。又本朝文粹に云、

夫白河院昔は大相国昭宣公之幽居、今則転陸侯右丞相之別業也。云々。

風 雅 花ゆへにみゆきふりにし渡りとは思ひや出る白川の水 藤原祐親

新拾遺 常よりもめづらしきかな白河の花とてはやす春の御幸は 法性寺入道

前太政大臣

〔地名の字に、白河の北殿、南殿、築山下の御所等なり。元永年中、白河上皇の離宮なり。保元元年崇徳上皇こゝに遷幸して皇居とし給ふ。関墻の禍ありて決戦利あらず、上皇讃州に幸有て崩じ給ふ。寿永三年四月勅して原廟をこゝに創す、是を粟田宮と号す、祭儀嚴重たり、吉記に見えたり。建武元年七月兵燹に罹る。文和三年二月重て建営ある、大中臣日記にあり。是より先嘉禎三年四月、粟田宮を東の方に遷す、洪水の害あるをもつてなり。新殿は北殿の東にあり、泉殿は阿弥陀堂故墟にあり、地名今に尚存す。園大曆云、承久五年五月二日、白河阿弥陀堂の泉殿に行幸す、即これなり。白河押小路殿、近衛河原殿、俱に河東にあり。安嘉門院、北白河殿、野河の御所、白河池殿等は的所いまだ詳ならず。岡崎殿は岡崎村の中なり、地名を御所内といふ、承元年中上皇營給ふて離宮とし給ふ事、鮮に百練抄に見えたり〕